

2. 障害者手帳

(1) 身体障害者手帳

■内容

手帳には、障がいの程度で1級から6級の区分があり、手帳の交付を受けると障がい者制度を利用しやすくなります。

■対象者

視覚、聴覚・平衡機能、音声・言語・そしゃく機能、肢体（上肢・下肢・体幹・脳原性運動機能）、心臓機能、じん臓機能、呼吸器機能、ぼうこう・直腸機能、小腸機能、肝臓機能、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能に障がいのある方

※詳しくは、身体障害者障害程度等級表（6～10 ページ）をご覧ください。

■新規交付の手続き

①必要な用紙の受け取り	南丹市社会福祉課または各支所で申請に必要な用紙（申請書・診断書）を受け取ってください。
②診断書の作成	指定医師の診断を受け、診断書の作成を依頼してください。 市社会福祉課または各支所に申請書を提出してください。 『必要なもの』 ◎申請書 ◎診断書（概ね3カ月以内のもの） ◎顔写真（たて4cm×よこ3cm・脱帽・概ね1年以内のもの） ◎個人番号カード、または通知カードと顔写真付き身分証明書（例：障害者手帳）など
③申請書の提出	京都府での審査後、市からその結果を連絡しますので、手帳が交付される場合は、市社会福祉課または各支所で手帳を受け取ってください。
④手帳の交付	※申請から手帳が交付されるまで、通常2カ月以上かかります。 ※障がいの状況や住所・氏名に変更があったり、手帳を紛失・破損されたとき、または、本人が死亡されたときは、必ず担当窓口に届出をしてください。 ※京都府から更新手続きの案内があれば、お早めに手続きをしてください。

■担当窓口

南丹市社会福祉課 電話：0771-68-0007／FAX：0771-68-1166

■身体障害者障害程度等級表 (太線より上は第1種を、下は第2種を表します)

きゆ 級	し かく 視覚	ちようかく へいこう きのう 聴覚・平衡機能		おんせい げんご 音声・言語・ そしゃく機能
		ちようかく 聴覚	へいこう きのう 平衡機能	
1	しりょく よほう めし 視力の良い方の眼の視 りょく いか 力が0.01以下のもの			
2	1. 視力の良い方の眼の しりょく いじょう 視力が0.02以上 いか 0.03以下のもの 2. 視力の良い方の眼の しりょく た 視力が0.04かつ他 ほう め しりょく しゅどう 方の眼の視力が手動 べん いか 弁以下のもの しゅうへんし やかくど 3. 周辺視野角度(I/4視 ひよう そうわ 標による)の総和が さゆうがん ど 左右眼それぞれ80度 いか りょうがんちゅうしん 以下かつ両眼中心 しやかくど しひょう 視野角度(I/2視標に ど いか よる)が28度以下の もの りょうがんかいほうしにんてんすう 4. 両眼開放視認点数が てんいか りょうがん 70点以下かつ両眼 ちゅうしんし やしにんてんすう 中心視野視認点数が てんいか 20点以下のもの	りょうじ ちようりょく 両耳の聴力レベルがそれ ぞれ100dB以上のもの(両 じせん 耳全ろう)		
3	1. 視力の良い方の眼の しりょく いじょう 視力が0.04以上 いか 0.07以下のもの(2 きゆう がいとう 級の2に該当するも のを除く) 2. 視力の良い方の眼の しりょく た 視力が0.08かつ他 ほう め しりょく しゅどう 方の眼の視力が手動 べん いか 弁以下のもの しゅうへんし やかくど 3. 周辺視野角度(I/4視 ひよう そうわ 標による)の総和が さゆうがん ど 左右眼それぞれ80度 いか りょうがんちゅうしん 以下かつ両眼中心 しやかくど しひょう 視野角度(I/2視標に ど いか よる)が56度以下の もの りょうがんかいほうしにんてんすう 4. 両眼開放視認点数が てんいか りょうがん 70点以下かつ両眼 ちゅうしんし やしにんてんすう 中心視野視認点数が てんいか 40点以下のもの	りょうじ ちようりょく 両耳の聴力レベルが 90dB以上のもの(耳介に接 じかい せつ しなければ大声語を理解し だいせいご 得ないもの)	へいこう きのう 平衡機能の極 きわ いちじる しょうがい て著しい障害	おんせい きのう 音声機能、げんご 言語機能 また きのう 又はそしゃく機能の そうちつ 喪失

	1. 視力の良い方の眼の視力が0.08以上 0.1以下のもの(3級の2に該当するものを除く) 2. 周辺視野角度(I/4視標による)の総和が左右眼それぞれ80度以下 3. 兩眼開放視認点数が70点以上のもの	1. 兩耳の聴力レベルが80dB以上ものの(耳介に接しなければ話声語を理解し得ないもの) 2. 兩耳による普通話声の最も良の語音明瞭度が50%以下のもの	おんせいきのうげんごきのう音声機能、言語機能 また又はそしゃく機能のいちじるしうがい著しい障害
4	1. 視力の良い方の眼の視力が0.2かつ他方の眼の視力が0.02以下 2. 兩眼による視野(I/4視標による)の1/2以上が欠けているもの 3. 兩眼中心視野角度(I/2視標による)が56度以下のもの 4. 兩眼開放視認点数が70点を超えて100点数以下のもの 5. 兩眼中心視野視認点数が40点以下のもの		へいこうきのういちじる平衡機能の著しい障害
5	視力の良い方の眼の視力が0.3以上0.6以下かつ他方の眼の視力が0.02以下のもの	1. 兩耳の聴力レベルが70dB以上のもの(40cm以上の距離で発声された会話語を理解し得ないもの) 2. 一侧耳の聴力レベルが90dB以上、他側耳の聴力レベルが50dB以上のもの	
6			
7			

きゅ 級	ないぶきのう 内部機能			
	しんぞうきのう 心臓機能	ぞうきのう じん臓機能	こきゅうきのう 呼吸器機能	ちょくちょうきのう ぼうこう・直腸機能
1	しんぞうきのう 心臓の機能の障害に より自己の身辺の日 常生活活動が極度に 制限されるもの	ぞうきのう じん臓の機能の障害 により自己の身辺の日 常生活活動が極度に 制限されるもの	こきゅうきのう 呼吸器の機能の障害 により自己の身辺の日 常生活活動が極度に 制限されるもの	またちょくちょう ぼうこう又は直腸の 機能の障害により自 己の身辺の日常生活 活動が極度に制限さ れるもの
2				
3	しんぞうきのう 心臓の機能の障害に より家庭内での日常 生活活動が著しく制 限されるもの	ぞうきのう じん臓の機能の障害 により家庭内での日 常生活活動が著しく 制限されるもの	こきゅうきのう 呼吸器の機能の障害 により家庭内での日 常生活活動が著しく 制限されるもの	またちょくちょう ぼうこう又は直腸の 機能の障害により家 庭内での日常生活活 動が著しく制限され るもの
4	しんぞうきのう 心臓の機能の障害に より社会での日常生活 活動が著しく制限 されるもの	ぞうきのう じん臓の機能の障害 により社会での日常 生活活動が著しく制 限されるもの	こきゅうきのう 呼吸器の機能の障害 により社会での日常 生活活動が著しく制 限されるもの	またちょくちょう ぼうこう又は直腸の 機能の障害により社 会での日常生活活動 が著しく制限される もの
5				
6				
7				

きゅ 級	ないぶきのう 内部機能		
	しょうちょうきのう 小腸機能	めんえきふせん ヒト免疫不全ウイルス による免疫機能	かんぞうきのう 肝臓機能
1	しょうちょうきのう 小腸の機能の障害により自 己の身辺の日常生活活動が 極度に制限されるもの	めんえきふせん ヒト免疫不全ウイルスによる 免疫の機能の障害により日 常生活がほとんど不可能なも の	かんぞうきのう 肝臓の機能の障害により日 常生活活動がほとんど不可能 なもの
2		めんえきふせん ヒト免疫不全ウイルスによる 免疫の機能の障害により日 常生活が極度に制限される もの	かんぞうきのう 肝臓の機能の障害により日 常生活活動が極度に制限さ れるもの
3	しょうちょうきのう 小腸の機能の障害により家 庭内での日常生活活動が著 しく制限されるもの	めんえきふせん ヒト免疫不全ウイルスによる 免疫の機能の障害により日 常生活が著しく制限される もの(4級相当者を除く)	かんぞうきのう 肝臓の機能の障害により日 常生活活動が著しく制限さ れるもの(4級相当者を除く)
4	しょうちょうきのう 小腸の機能の障害により社 会での日常生活活動が著しく 制限されるもの	めんえきふせん ヒト免疫不全ウイルスによる 免疫の機能の障害により社会 での日常生活活動が著しく 制限されるもの	かんぞうきのう 肝臓の機能の障害により社会 での日常生活活動が著しく 制限されるもの
5			
6			
7			

きゅう 級	したいふじゆう 肢体不自由			
	じょうし 上肢		かし 下肢	
1	<p>りょうじょうし　きのう　ぜんぱい</p> <p>1. 両上肢の機能を全廢</p> <p>りょうじょうし　てかんせついじょう　か</p> <p>2. 両上肢を手関節以上で欠く</p>		<p>りょうかし　きのう　ぜんぱい</p> <p>1. 両下肢の機能を全廢</p> <p>りょうかし　だいたい　いじょう　か</p> <p>2. 両下肢を大腿の1/2以上で欠く</p>	
2	<p>りょうじょうし　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>1. 両上肢の機能の著しい障害</p> <p>りょうじょうし　ゆび　か</p> <p>2. 両上肢のすべての指を欠く</p> <p>いちじょうし　じょうわん　いじょう　か</p> <p>3. 一上肢を上腕の1/2以上で欠く</p> <p>いちじょうし　きのう　ぜんぱい</p> <p>4. 一上肢の機能を全廢</p>		<p>りょうかし　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>1. 両下肢の機能の著しい障害</p> <p>りょうかし　かたい　いじょう　か</p> <p>2. 両下肢を下腿の1/2以上で欠く</p>	
3	<p>りょうじょうし　ゆび　ゆび　か</p> <p>1. 両上肢のおや指とひとさし指を欠く</p> <p>りょうじょうし　ゆび　ゆび　きのう　ぜんぱい</p> <p>2. 両上肢のおや指とひとさし指の機能を全廢</p> <p>いちじょうし　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>3. 一上肢の機能の著しい障害</p> <p>いちじょうし　ゆび　か</p> <p>4. 一上肢のすべての指を欠く</p> <p>いちじょうし　ゆび　きのう　ぜんぱい</p> <p>5. 一上肢のすべての指の機能を全廢</p>		<p>りょうかし　かんせついじょう　か</p> <p>1. 両下肢をショパー関節以上で欠く</p> <p>いちかし　だいたい　いじょう　か</p> <p>2. 一下肢を大腿の1/2以上で欠く</p> <p>いちかし　きのう　ぜんぱい</p> <p>3. 一下肢の機能を全廢</p>	
4	<p>りょうじょうし　ゆび　か</p> <p>1. 両上肢のおや指を欠く</p> <p>りょうじょうし　ゆび　きのう　ぜんぱい</p> <p>2. 両上肢のおや指の機能を全廢</p> <p>いちじょうし　かたかんせつ　ひじかんせつまた　てかんせつ</p> <p>3. 一上肢の肩関節、肘関節又は手関節のうち、いずれか一関節の機能を全廢</p> <p>いちかんせつ　きのう　ぜんぱい</p> <p>4. 一上肢のおや指とひとさし指を欠く</p> <p>いちじょうし　ゆび　ゆび　か</p> <p>5. 一上肢のおや指とひとさし指の機能を全廢</p> <p>ゆびまた　ゆび　ふく　いちじょうし　さんし　か</p> <p>6. おや指又はひとさし指を含めて一上肢の三指を欠く</p> <p>ゆびまた　ゆび　ふく　いちじょうし　さんし　き</p> <p>7. おや指又はひとさし指を含めて一上肢の三指の機能を全廢</p> <p>ゆびまた　ゆび　ふく　いちじょうし　さんし　き</p> <p>8. おや指又はひとさし指を含めて一上肢の四指の機能の著しい障害</p>		<p>りょうかし　ゆび　か</p> <p>1. 両下肢のすべての指を欠く</p> <p>りょうかし　ゆび　きのう　ぜんぱい</p> <p>2. 両下肢のすべての指の機能を全廢</p> <p>いちかし　かたい　いじょう　か</p> <p>3. 一下肢を下腿の1/2以上で欠く</p> <p>いちかし　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>4. 一下肢の機能の著しい障害</p> <p>いちかし　こかんせつまた　ひざかんせつ　きのう　ぜんぱい</p> <p>5. 一下肢の股関節又は膝関節の機能を全廢</p> <p>いちかし　けんそく　ひ　いじょうまた　けんそく</p> <p>6. 一下肢が健側に比して10cm以上又は健側の長さの1/10以上短い</p>	
5	<p>りょうじょうし　ゆび　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>1. 両上肢のおや指の機能の著しい障害</p> <p>いちじょうし　かたかんせつ　ひじかんせつまた　てかんせつ</p> <p>2. 一上肢の肩関節、肘関節又は手関節のうち、いずれか一関節の機能の著しい障害</p> <p>いつかんせつ　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>3. 一上肢のおや指を欠く</p> <p>いちじょうし　ゆび　か</p> <p>4. 一上肢のおや指の機能を全廢</p> <p>いちじょうし　ゆび　ゆび　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>5. 一上肢のおや指とひとさし指の機能の著しい障害</p> <p>ゆびまた　ゆび　ふく　いちじょうし　さんし　き</p> <p>6. おや指又はひとさし指を含めて一上肢の三指の機能の著しい障害</p>		<p>いちかし　こかんせつまた　ひざかんせつ　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>1. 一下肢の股関節又は膝関節の機能の著しい障害</p> <p>いちかし　そくかんせつ　きのう　ぜんぱい</p> <p>2. 一下肢の足関節の機能を全廢</p> <p>いちかし　けんそく　ひ　いじょうまた　けんそく</p> <p>3. 一下肢が健側に比して5cm以上又は健側の長さの1/15以上短い</p>	
6	<p>いちじょうし　ゆび　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>1. 一上肢のおや指の機能の著しい障害</p> <p>ゆび　ふく　いちじょうし　にし　か</p> <p>2. ひとさし指を含めて一上肢の二指を欠く</p> <p>ゆび　ふく　いちじょうし　にし　きのう　ぜんぱい</p> <p>3. ひとさし指を含めて一上肢の二指の機能を全廢</p>		<p>いちかし　かんせついじょう　か</p> <p>1. 一下肢をリスフラン関節以上で欠く</p> <p>いちかし　そくかんせつ　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>2. 一下肢の足関節の機能の著しい障害</p>	
7	<p>いちじょうし　きのう　けいど　しおがい</p> <p>1. 一上肢の機能の軽度の障害</p> <p>いちじょうし　かたかんせつ　ひじかんせつまた　てかんせつ</p> <p>2. 一上肢の肩関節、肘関節又は手関節のうち、いずれか一関節の機能の軽度の障害</p> <p>いちかんせつ　きのう　けいど　しおがい</p> <p>3. 一上肢の手指の機能の軽度の障害</p> <p>いちじょうし　てゆび　きのう　けいど　しおがい</p> <p>4. ひとさし指を含めて一上肢の二指の機能の著しい障害</p> <p>ゆび　ふく　いちじょうし　にし　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>5. 一上肢のなか指、くすり指及び小指を欠く</p> <p>いちじょうし　ゆび　ゆびおよ　こゆび　きのう　ぜんぱい</p> <p>6. 一上肢のなか指、くすり指及び小指の機能を全廢</p>		<p>りょうかし　ゆび　きのう　いちじる　しおがい</p> <p>1. 両下肢のすべての指の機能の著しい障害</p> <p>いちかし　きのう　けいど　しおがい</p> <p>2. 一下肢の機能の軽度の障害</p> <p>いちかし　こかんせつ　ひざかんせつまた　そくかんせつ</p> <p>3. 一下肢の股関節、膝関節又は足関節のうち、いずれか一関節の機能の軽度の障害</p> <p>いちかし　ゆび　か</p> <p>4. 一下肢のすべての指を欠く</p> <p>いちかし　ゆび　きのう　ぜんぱい</p> <p>5. 一下肢のすべての指の機能を全廢</p> <p>いちかし　けんそく　ひ　いじょうまた　けんそく</p> <p>6. 一下肢が健側に比して3cm以上又は健側の長さの1/20以上短い</p>	

きゅう 級	したいふじゆう 肢体不自由			
	たいかん 体幹	にゅうようじきいぜんひしんこうせいのうびょうへんうんどうきのうしうがい 乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害		
		じょうしきのう 上肢機能	いどうきのう 移動機能	
1	たいかんきのうしうがいすわ 体幹の機能障害により坐っていることができないもの	ふずいいうんどうしつちょうとうじょう 不随意運動・失調等により上肢を使用する日常生活動作がほとんど不可能なもの	ふずいいうんどうしつちょうとうほ 不随意運動・失調等により歩行が不可能なもの	
2	1. たいかんきのうしうがいざい 体幹の機能障害により坐位または起立位を保つことが困難なもの 2. たいかんきのうしうがいた 体幹の機能障害により立ち上がることが困難なもの	ふずいいうんどうしつちょうとうじょう 不随意運動・失調等により上肢を使用する日常生活動作が極度に制限されるもの	ふずいいうんどうしつちょうとうほ 不随意運動・失調等により歩行が極度に制限されるもの	
3	たいかんきのうしうがいほこう 体幹の機能障害により歩行が困難なもの	ふずいいうんどうしつちょうとうじょう 不随意運動・失調等により上肢を使用する日常生活動作がいちじるせいげん著しく制限されるもの	ふずいいうんどうしつちょうとうほ 不随意運動・失調等により歩行が家庭内での日常生活活動に制限されるもの	
4		ふずいいうんどうしつちょうとうじょう 不随意運動・失調等による上肢の機能障害により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの	ふずいいうんどうしつちょうとうしゃ 不随意運動・失調等により社会での日常生活活動が著しく制限されるもの	
5	たいかんきのういちじるしうがい 体幹の機能の著しい障害	ふずいいうんどうしつちょうとうじょう 不随意運動・失調等による上肢の機能障害により社会での日常生活活動に支障のあるもの	ふずいいうんどうしつちょうとうしゃ 不随意運動・失調等により社会での日常生活活動に支障のあるもの	
6		ふずいいうんどうしつちょうとうじょう 不随意運動・失調等により上肢の機能の劣るもの	ふずいいうんどうしつちょうとうい 不随意運動・失調等により移動機能の劣るもの	
7		じょうしおずいいうんどうしつちょうとう 上肢に不随意運動・失調等を有するもの	かしふずいいうんどうしつちょうとう 下肢に不随意運動・失調等を有するもの	

どういつとうきゅう ちようふく しょうがい ぱあい きゅううえ きゅう
1. 同一の等級について2つの重複する障害がある場合は、1級上の級とする。ただし、2つの

ちようふく しょうがい とく ほんひょうちゅう してい がいとうとうきゅう
重複する障害が特に本表中に指定されているものは、該当等級とする。

したいふじゆう きゅう がいとう しょうがい いじょうちゅうふく ぱあい きゅう
2. 肢体不自由においては、7級に該当する障害が2つ以上重複する場合は、6級とする。

こととうきゅう いじょう ちようふく しょうがい ぱあい しょうがい ていどかんあん
3. 異なる等級について2つ以上の重複する障害がある場合については、障害の程度を勘案して

とうがいとうきゅう うえ きゅう
当該等級より上の級とすることができる。

ゆびか ゆび しこつかんかんせつ た ゆび だいいつしこつかんかんせつ
4. 「指を欠くもの」とは、おや指については指骨間関節、その他の指については第一指骨間関節以上を欠くものをいう。

ゆびきのうしうがい ちゆうしゅしせつかんせついか しょうがい ゆび たいこううんどうしうがい
5. 「指の機能障害」とは、中手指節関節以下の障害をいい、おや指については、対抗運動障害をも含むものとする。

じょうしまたかしけつそん だんたんなが じつようちゅうじょうわん えきか だいたいざこつ
6. 上肢又は下肢欠損の断端の長さは、実用長（上腕においては腋窩より、大腿においては坐骨結節の高さより計測したもの）をもつて計測したものをいう。

かしなが せんちようこつきょくうちかたんけいそく
7. 下肢の長さは、前腸骨棘より内くるぶし下端までを計測したものをいう。

(2) 療育手帳

■ 内容

手帳には、障がいの程度でA・Bの区分があり、手帳の交付を受けると障がい者制度を利用しやすくなります。

■ 対象者

知的機能の障がいが発達期（おおむね18歳まで）にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、特別の支援を必要とする方

※知的障がいが伴なっているなど、医師、専門機関の判断によって、発達障がいのある方も対象になる場合があります。

■ 新規交付の手続き

①申請書の提出	南丹市社会福祉課または各支所に申請書を提出してください。 《必要なもの》 ◎申請書 ◎調査票（生育歴などの記入が必要） ◎顔写真（たて4cm×よこ3cm・脱帽・概ね1年以内のもの）
②障がいの程度の判定	京都府家庭支援総合センターから連絡がありますので、同センターまたは児童相談所で障がいの程度の判定を受けてください。
③手帳の交付	市から連絡しますので、手帳が交付される場合は、市社会福祉課または各支所で手帳を受け取ってください。

※障がいの程度の判定から手帳が交付されるまで、通常2カ月以上かかります。

※住所・氏名に変更があったり、手帳を紛失・破損されたとき、または、本人が死亡されたときは、必ず担当窓口に届出をしてください。

※京都府から更新手続きの案内があれば、お早めに手続きをしてください。

■ 担当窓口

南丹市社会福祉課 電話:0771-68-0007／FAX:0771-68-1166

(3) 精神障害者保健福祉手帳

■ 内容

手帳には、障がいの程度で1級から3級の区分があり、手帳の交付を受けると、障がい者制度を利用しやすくなります。

■ 対象者

精神障がいのため、長期にわたり日常生活・社会生活への制約がある方

※精神障がいが伴なっているなど、医師、専門機関の判断によって発達障がいのある方や認知症の方も、対象になる場合があります。

■ 新規交付の手続き

※下記③でBの提出が可能な方は、①②の手続きは不要です。

① 必要な用紙の受け取り	なんたんししゃかいふくしかかくしそしょしんせいひつようようししんせいしょしん 南丹市社会福祉課または各支所で申請に必要な用紙（申請書・診断書）を受け取ってください。
② 診断書の作成	いししんだんうしんだんしょさくせいいらい 医師の診断を受け、診断書の作成を依頼してください。
③ 申請書の提出	なんたんししゃかいふくしかかくしそしょしんせいしょていしゅつ 南丹市社会福祉課または各支所に申請書を提出してください。 《必要なもの》 ◎申請書 ◎下記A・Bのいずれか A. 診断書（初診日から6カ月以上経過したもの） B. 精神障がいを理由とする年金証書の写し 直近の年金支払通知書の写し 年金事務所（共済組合）照会用の同意書 ◎顔写真（たて4cm×よこ3cm・脱帽・概ね1年以内のもの） ※顔写真の添付を希望されない場合、福祉サービスの一部が受けられないことがありますので、ご理解のうえ、承諾書のご記入が必要です。 ◎個人番号カード、または通知カードと顔写真付き身分証明書 (例：障害者手帳)など
④ 手帳の交付	きょうとふしんきごしけつかれんらくてちょうこう 京都府での審査後、市からその結果を連絡しますので、手帳が交付される場合は、南丹市社会福祉課または各支所で手帳を受け取ってください。

※申請から手帳が交付されるまで、通常2カ月以上かかります。

※住所・氏名に変更があったり、手帳を紛失・破損されたとき、または、本人が死亡されたときは、必ず担当窓口に届出をしてください。

※手帳に記載されている有効期限の3カ月前から更新手続きができますので、お早めに手続きをしてください。（京都府からの更新手続きの案内はありません。）

■ 担当窓口

なんたんししゃかいふくしかでんわ
南丹市社会福祉課 電話：0771-68-0007／FAX：0771-68-1166